

田中大喜先生とつくる「鎌倉幕府の滅亡」の授業

埼玉県立飯能高等学校 青 宏起

はじめに

国立歴史民俗博物館（「歴博」）に、博学連携をはじめてから出会ったのは、2010（平成22）年の夏の「先生のための歴博講座」だった。それまで埼玉県内の博物館などから教室に物や人を持ち込んでいた私は、小島道裕先生と松尾恒一先生のフローアーガイドを受けて「歴博」の魅力に取りつかれた。それ以来、時間を見つけては自宅から片道2時間半かけて「歴博」に通うことになった。今回お世話になった田中大喜先生には、2度目の博学連携研究員となった2017（平成29）年に、フローアーガイドをしていただいた。

私は、博学連携研究員をしていく中で3つのことを考えてきた。1つ目は、学校のある地域と「歴博」とをどのように結びつけるかということ。2つ目はどのような連携の方法をとるのかということ。3つ目は授業の展開、特に事前学習のやり方である。1つ目については、本題であるので後で説明したい。

2つ目の連携の方法であるが、私がこれまでに実践してきた方法を振り返ってみると、次のような方法を時には組み合わせて行ってきた。

- I 博物館などと連携して実物教材やレプリカを教室に持ち込むこと。
- II 博物館などに生徒を引率して博物館の展示を見ること。
- III 博物館などの研究者・学芸員を招いて行うこと。招くには「来校していただく」こともあれば、今回のように Zoom で参加していただくこともある。ICT の活用によって、様々な方法が可能になってきた。

3つ目の事前学習であるが、私は実物教材などの収集をしていないが、この20年間、特に地元の博物館で行われる企画展示などは、見た後に必ず図録を購入してきた。また博物館の常設展示の図録なども購入してきた。特にIIIでは集めた図録を使用して学習テーマを設定し、「どの単元でどのような授業を行いたいか」という構想を練る。その後事前学習の教材を作成し、博物館の方と打合せをする。打合せて助言を頂き、事前学習の教材を練り直す。時間がある限り、このようなことをしてきた。

事後学習が、当日のワークシートによる内容理解の確認と感想の記入にとどまっているが、整理して博物館にも報告している。事後学習においては、発表学習などによる生徒同士のつながりを作れていないことは、今後の課題といえる。

今回はIIIを中心とした実践報告となる。田中大喜先生（当時は歴博の准教授で、現在は日本大学文理学部教授）の著作『足利氏と新田氏』、『新田一族の中世』（吉川弘文館）に出会ったときに、歴博の第二展示室や地元の鎌倉街道上道、1333年の板碑などを関連させて『鎌倉幕府の滅亡』をテーマに授業ができと思った。Zoom による双方向型の授業で田中先生に講義をしていただいたことは、生徒にとっても私にとっても感動する記憶に残るものとなった。

1 実施学年及び教科

- ① 2年生 ② 日本史探究（選択授業 20名）

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 第2編 中世日本と社会

第3章—2 武家支配の広がりと国際交流

第1節 南北朝の動乱と室町幕府の成立

(2) ねらい

① 学習指導要領との関連

中世の国家・社会の画期となった鎌倉幕府の滅亡と室町幕府の成立について、「事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、中世がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ること」をねらいとした。

② 単元の目標

「鎌倉幕府の滅亡」について、鎌倉幕府が短期間に滅亡した理由や北条氏から足利氏へ政権が移ったことについて理解を深める。

(3) 博物館との関連

- ① 活用方法 非来館 国立歴史民俗博物館・総合研究大学院准教授田中大喜先生による Zoom での授業

② 活用資料

第2展示室「武士の館」模型、智願寺の板碑のレプリカ、中世都市「鎌倉」の模型、「六条八幡宮造営注文」などの活用を検討した。智願寺の板碑については連続して行った授業で使用した。「武士の館」模型は、飯能市内にあった中山氏の館がモデルであったと知り活用を考えたが、その後の研究で鎌倉時代の館ではないことが分かっていることから断念した。

(4) 指導観

埼玉県立飯能高等学校は令和5年度に埼玉県立飯能南高等学校と合併した。進学を重視するとともに、探究活動を重視する学校としてスタートした。

今回は、このような特色を持つ学校に着任し、「歴博」で博学連携を考え、地域の博物館（飯能市立博物館）や地域に残る文化財とつなげることで、歴史を探究しようという実践である。「歴博」に足を運び歴史教材について考え、あらためて地元の博物館と連携して、地元の歴史や文化財と教科書との間を繋ぐことは意義があると考えられる。今回のような実践の中で、生徒たちが地域の歴史に対して魅力を感じてくれることを願っている。

3 指導計画（テーマの選択について）

飯能高校は旧武蔵国北部にある。近くには鎌倉街道上道があり、鎌倉時代末期には鎌倉幕府の御家人と北条得宗家の御内人を兼ねた加治家貞の拠点があったとされている。加治

家貞は元弘3年5月の新田義貞の鎌倉攻めに際して、幕府軍の副将として小手指ヶ原・久米川・分倍河原で戦い、同年5月22日、幕府滅亡に殉じたとされている。彼を供養した板碑が、飯能市に隣接する入間市の円照寺にある。

今回は令和5年11月30日の授業をどのようにつくったかをまとめる。なお、12月5日には、埼玉県南西部に残る「板碑」について飯能市立博物館と連携した授業実践を行った。

(1) 授業の内容について

2学期の「日本史探究」(2単位)の授業で中世史を扱ってきた。東京書籍『日本史探究』の目次は以下の通りである。

第3章 中世社会の展開

第1節 武家政権の成立と朝廷

- 1 鎌倉幕府の誕生 2 執権による政治 3 モンゴル襲来と社会の変貌
[4 鎌倉仏教と文化 ※ここは、3年生の「日本文化史」の授業で扱う]

第2節 武家支配の広がりとの国際交流

- 1 南北朝の動乱と室町幕府の成立(鎌倉幕府の滅亡)

最後の「鎌倉幕府の滅亡」に関して、この分野の第一人者である国立歴史民俗博物館・総合研究大学院准教授田中大喜先生に Zoom による授業をお願いした。事前準備として私は田中先生の著作を読み、どのような内容の授業をお願いしたいかを考えた。

なぜ新田義貞は、短期間に幕府を滅ぼすことができたのか

このことを考える道筋を田中先生の『足利氏と新田氏』から考察した。そして〔1〕〔2〕のような柱を立てた。

〔1〕 鎌倉時代の足利氏と新田氏の格差について

鎌倉時代の両氏の経済格差については、13世紀後半においては、足利氏と新田氏との間には圧倒的な経済格差があると幕府に認識されていた。この経済格差は、両者の所領規模の格差に裏づけられていたとみられる。

また、政治的地位の格差については、御家人たちは、本来「鎌倉殿(将軍)の前では平等」を原則としていたが13世紀後半には、幕府中央要職を基準とする幕府独自の家格秩序が成立していて、御家人は支配する側と支配される側に分裂していた。

足利氏は、幕府の「特権的支配層」として、足利義氏(政所別当)、5代将軍藤原頼嗣以降、足利氏は将軍近臣として支配層の一角に連なっていた。そのため「鎌倉中」として13世紀後半までに足利氏は、本領だった下野国足利荘を離れて鎌倉を活動基盤にするようになった。一方新田氏は、基本的に上野国の新田荘と八幡荘を活動基盤とし、鎌倉には必要に応じて姿をみせる程度だった。

〔2〕 新田義貞の武蔵国(北部)での進撃について

新田義貞の進撃の背景には足利高氏の命令があったとされる。このことについて田中先生は以下のようにご指摘されている。

「いっぽう高氏から追討命令を受け取っていた義貞は、六波羅探題の政庁が陥落した翌日の五月八日、新田荘市野井郷の生品神社で挙兵した。高氏と歩調を合わせた挙兵である

ことは疑いなく、日程についても高氏から指示があったと思われる。義貞は八幡荘に入って上野・越後・甲斐・信濃国の武士たちを糾合すると、一路鎌倉を目指して南下した。これに対して幕府は、武蔵国に軍勢を派遣して迎え撃った。義貞軍と幕府軍は一進一退の攻防を繰り返したが、義貞軍は十六日に武蔵国府近傍の分倍河原での合戦に勝利すると、一気に鎌倉へ進撃した。」 『足利氏と新田氏』(p 114 から引用)

次に、この進撃において武蔵国の武士達の動向を考える上で、重要だと思ったところは以下の部分である。上野の武士と並んで藤田氏以下武蔵北部の武士がいる。

「新田氏の被官構成については(中略) 船田氏や由良氏のほかに、(中略) 高田氏・篠塚氏・高山氏・園田氏・山上氏・藤田氏(武蔵国榛沢郡)・長浜氏(同国賀美郡)・栗生氏・難波(難波田か)氏・川越氏・青木氏(以上、同国入間郡)は、おおよそ上野中央部・東部から武蔵北部に出自を持つ武士たちと推測でき、その分布は新田氏の軍事的テリトリーとほぼ重なる点が注目される。」 『足利氏と新田氏』(p 98 から引用)

私は〔1〕〔2〕から、新田氏は足利一門のような立場にあり、新田義貞が足利高氏と連携していたこと、また新田氏は武蔵国北部に軍事的勢力圏を持っていた鎌倉幕府から離反したことが重要ではないかと考えた。このことを田中先生に説明していただき、「1333 年の鎌倉幕府の滅亡」という出来事を深める授業にしたいと考えた。

(2) 事前準備

① スライド資料の作成

スライド資料は、田中先生の著作『新田一族の中世』、『足利氏と新田氏』などを参考に、令和5年の夏季休業中に群馬県太田市や所沢市、東京の東村山市、府中市、神奈川県鎌倉市を訪ね写真に撮ったものを、田中先生の言葉をお借りしてまとめたものである。

鎌倉時代 6

鎌倉幕府の滅亡

1333(元弘3)年閏2月、**後醍醐天皇**は、**隠岐国**を脱出して伯耆国の船上山(現鳥取県)に入り、諸国の武士や寺社に広く挙兵を呼びかけた。

この状況をみた幕府は、ふたたび関東から追討軍を派遣することに決し、1331年に続いて**足利高氏(尊氏)**に出陣を命じた。

幕府は、名越高家と**足利高(尊)氏**を大将とする大軍を畿内に派遣した。しかし名越高家が討ち死にすると、**足利高(尊)氏**は幕府に叛旗を翻し、5月7日**六波羅探題**を陥落させた。

翌日、**足利高(尊)氏**の挙兵指令に応じた**新田義貞**が、上野国新田荘(群馬県太田市周辺)で挙兵した。

1333年5月8日
新田義貞の挙兵!



生品神社
(群馬県太田市)





円福寺
新田氏歴代の墓所



世良田新田館（総持寺）
新田義重（初代）の居館
跡の伝承を持つ



鎌倉街道 上道（毛呂山町大畑）



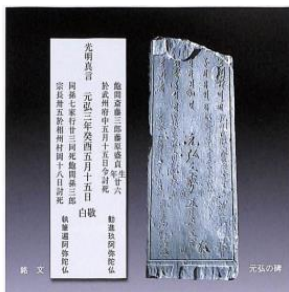
5月11日 小手指原の戦い（所沢市）



小高い山の上に戦いに勝利した新田義貞が、源氏の旗をたてたとされる。



前日、小手指で決着がつかず、翌5月12日
久米川で、新田軍は、鎌倉幕府軍と戦った。
（東京都 東村山市）



これは、新田方の武将で久米川の戦いで戦死した
飽間（あきま）氏の供養をした石碑



東京都 東村山市 徳蔵寺



5月15日、新田義貞軍と鎌倉幕府軍は、武蔵国府近傍の
分倍河原（東京都府中市）で戦った。新田軍は、ここで敗れ
堀桑（狹山市）まで退却した。この新田軍に三浦大多和
義勝の軍勢が合流し、翌16日幕府軍を破り、鎌倉へ進軍した。

5月18日から鎌倉攻防戦がはじまった。新田義貞は、全軍を三手にわけ、極楽寺坂・小袋坂・化粧坂の三方から鎌倉に攻め寄せた。



極楽寺坂方面の戦闘で苦戦したが、5月21日、応援に駆けつけた新田義貞の軍勢が稲村ヶ崎の突破に成功した。人家を焼き払いながら鎌倉市中に侵攻した。



極楽寺坂



5月22日、進退きわまった 北条高時以下の北条一門と家人870人余りは、菩提寺の東勝寺で自害した。新田義貞の拳兵からわずか2週間で鎌倉幕府は滅亡したのである。



北条執権の屋敷跡



北条氏の供養塔



北条高時を祀っている



円照寺の板碑
(胎藏界大日三尊種子板碑)

元弘3年5月22日は、新田義貞の軍勢が鎌倉を攻撃し、北条氏一族が自害して幕府が滅亡した日。円照寺を菩提寺とする加治家貞は、幕府軍の先陣として新田軍と戦ったが、運尽きて敗れた。加治氏の多くは北条氏と運命を共にしたといわれている。

(入間市博物館 解説より)

② 質問力を磨く

令和5年10月10日、歴博で田中先生と打ち合わせを行った。歴博に提出したレポートと事前学習に使用するスライド資料を見ていただいた。

打合せでは田中先生からあるご提案をいただいた。それは、先生がゲストとして登場して何かを説明するのではなく、事前に生徒から3つくらい質問をもらいそれに答える形で授業を展開したいというものであった。生徒の質問力が問われることとなった。そこで、鎌倉時代の授業の中で毎回その日の振り返りとして生徒が1つ質問を考えることにした。実施状況が次の表である。

ZOOM 授業の準備

日時	学習内容(穴埋めプリントの完成とスライド資料を使用しての解説) 【知・技】	授業の振り返り 【思・判・表】
10月31日(火)	中学歴史の鎌倉時代を読み直す(プリント) 執権政治①(プリント24)	
11月2日(木)	中学歴史の鎌倉時代を読み直す(プリント) (4名が学級閉鎖で欠席のため予定変更)	
7日(火)	執権政治②(プリント25)	質問を考える

9 日 (木)	元寇 (プリント 26)	質問を考える
16 日 (木)	鎌倉時代の経済 (プリント 27)	質問を考える
21 日 (火)	幕府の滅亡① スライド資料で事前学習 田中先生への質問を考える [図書館利用]	質問を考える
28 日 (火)	幕府の滅亡② 質問をまとめたものを使用して、30日の準備。	
30 日 (木)	幕府の滅亡③ Zoom で田中大喜先生と授業	

* 質問を考える

11 月 7 日から、授業中の内容について、短時間であったが質問を考える時間を作った。そこで出た質問については次の授業のはじめに解説した。長くなりそうなものは、プリントを事前に作成し解説した。実際にやってみると生徒の質問に答えるのが難しく苦勞した。

* 田中先生への質問

11 月 21 日、飯能高校の図書館でスライド資料を解説し、その後、図書館の資料なども活用しながら田中先生への事前の質問や当日の質問を考えた。以下はそれをまとめたものである。

事前質問

- ① 足利高氏が天皇側に寝返ったきっかけは何か。
(足利高氏はなぜ裏切ったか?)
- ② 「足利高氏が六波羅探題を滅ぼすと大勢が一変した」のはなぜか。
- ③ 新田義貞はなぜ鎌倉攻略に参加したのか。
- ④ 新田義貞が鎌倉市中に侵攻する際なぜ人家を焼き払う必要があったのか。

当日の質問案

- ・ 新田義貞はなぜ刀を海にすてて潮をひかせようと思ったのか。
- ・ 北条高時以下の北条一門と家人はなぜみんな自害したのか。
- ・ 幕府と武士 (御家人) の関係は蒙古襲来がなかったら良好だったのか。
- ・ 幕府をつくるのは初めての試みだと思うのですが、そんな中、150 年も続けていられるのは凄いことだと思いました。もう少し家来のことも考えていればもっと長く続く気がしました。
- ・ 楠木正成と新田義貞はなぜ生まれた年がわからないのか。
- ・ 御恩と奉公はなぜ崩れたのか。
- ・ 鎌倉幕府が滅亡した原因はなにか。
- ・ 後醍醐天皇は自分の皇子 (息子) が次の天皇になれない状況を倒幕せずに変えられなかったのか。
- ・ 正中の変 (1324 年) では何が変わったのか。
- ・ 後醍醐天皇はどうやって隠岐を脱出したのか。
- ・ なぜ小手指で決着がつかなかったのか、久米川の戦いとはなにか。

- ・ 新田義貞はどのように鎌倉を攻略したのか。
- ・ 新田義貞はなぜ三方から鎌倉に攻め寄せたのか。
- ・ 足利高氏はなぜ幕府滅亡後に足利尊氏に改名したのか。
- ・ なぜ加治家貞は自害したのか。

4 実践の概要

※当日の授業では、生徒の質問の中からいくつか選んで、それらを柱として展開することを考えた。質問が事前に決まっていたので、田中先生の解説をメモするためのワークシートを用意した。感想については次の時間の「板碑の授業」と合わせて記入することとした。

1	あいさつ 田中先生の紹介	5分
2	事前の質問①～④についての解説 (図や史料を使用して)	20分
3	質問(1) 鎌倉攻めについての質問 番外 楠木正成と新田義貞はなぜ生まれた年がわからないのか。 ・ 新田義貞はなぜ太刀を海にすてて潮をひかせようと思ったのか。本当の話なのか? ・ 新田義貞はどのように鎌倉を攻略したのか。 ・ 新田義貞はなぜ三方から鎌倉に攻め寄せたのか。 ・ 北条高時以下の北条一門と家人はなぜみんな自害したのか。東側に逃げなかったのか。	残りの時間で、さらに質問を通して探究を深めていく 15分程度
4	質問(2) 幕府の存続についての質問 ・ 幕府と武士(御家人)の関係は蒙古襲来がなかったら良好だったのか。 ・ 幕府をつくるのは初めての試みだと思うのですが、そんな中、150年も続けていられるのは凄いことだと思います。もう少し家来のことも考えていれば、もっと長く続く気がしました。 ・ 御恩と奉公はなぜ崩れたのか。	
5	質問(3) 後醍醐天皇についての質問 ・ 後醍醐天皇はどうやって隠岐を脱出したのか。 ・ 河内の楠木正成の他に後醍醐天皇の味方をしたのは誰か。 ・ 後醍醐天皇は自分の皇子(息子)が次の天皇になれない状況を倒幕せずに変えられなかったのか?	
6	質問(4) まとめ ・ 鎌倉幕府が滅亡した原因はなにか?	10分

11月30日
の教室の様子



「鎌倉幕府の滅亡」ワークシートのまとめ

ワークシートは、「1 田中大喜先生に事前質問したもの」と「2 当日に質問したもの」がある。以下は、質問に答えていただいた田中先生の説明を生徒が書き取ったものである。※文中の（ ）は生徒自身の括弧書き。〔 〕は、私が文章の主語などを補ったものである。

1 田中大喜先生に事前質問したもの

① 足利高氏が天皇側に寝返ったきっかけは何か。

- ・北条氏に対する社会の不満が高まり、高氏が足利家を守るため最終手段として寝返った。〈OU〉
- ・足利氏は代々北条氏の女性を正妻に迎えていた。北条氏に不満が高まると足利氏に矛先が向くかもしれない。関係を切るしかない。〈NS〉
- ・足利氏と北条氏がズブズブな関係だった。(北条の娘と足利を結婚させるなど。) 社会の北条氏に対する不満が増えた。反北条勢力の矛先が足利に向く可能性ができたため、北条の元を離れた。〈KK〉
- ・北条氏に対する社会の不満が高まり、後醍醐天皇の勢力が高まる。北条氏と足利氏は親戚関係で、自分〔足利氏〕を守るために裏切った。〈WM〉
- ・足利氏は、北条氏に代々娘を嫁がせることで、北条氏と密接な関係を築いてきた。そのため天皇側へつかなければ、自分〔足利氏〕も社会が不満を向ける対象となってしまう。足利氏が滅ぶ可能性が高いから。〈KH〉
- ・足利氏と北条氏の関係が深い。14世紀、北条氏の反対勢力が多くなった。だから危険に巻き込まれないために〔北条氏と〕縁を切った。〈IR〉

② 「足利高氏〔尊氏〕が六波羅探題を滅ぼすと大勢が一変した」のはなぜか。

- ・足利氏が裏切ったのが衝撃的だった。強い力を持っていた足利氏の離反は大きく、幕府や反幕府勢力に大きな影響を与えた。〈NS〉

- ・大勢が一変した一番の理由は、足利高氏が天皇側に寝返ったこと。(足利氏は北条氏に次ぐ有力御家人であったから。) 六波羅探題は幕府の行政機関である、六波羅探題が無くなったということは、幕府が政治をコントロールする機関が失われるということなので、幕府の権力低下を意味していたから。〈KH〉
- ・〔六波羅探題は〕京都の治安維持と西の裁判、悪党の取り締まりが仕事だったから、これがなくなると従うものがなくなった。足利氏は支配する側の御家人だから、北条氏がなくなれば足利がトップに。足利が抜ければ機能しない。〈AK〉
- ・足利が裏切るのは衝撃的だった。足利氏は支配する御家人(＝寄合衆家)と同じ家格だった。北条氏につく御家人は、足利が抜けると大きな影響を受けた。足利氏の離反は、幕府・反幕府の双方に大きな影響を与えた。〈OM〉
- ・足利氏が裏切ったことの衝撃が大きかった。ヒエラルギーがあり、足利は北条に次ぐ高い位だった。鎌倉幕府は「支配する」「支配される」側に分かれていた。〈SI〉

③ 新田義貞はなぜ鎌倉攻略に参加したのか。

- ・足利と新田は親戚関係にあったが足利に比べ新田は権力が弱いため平等な関係にはなかった。新田義貞は足利氏の一門(同族)だという意識をもっていたために鎌倉攻略に参加した。〔足利氏に〕「氏」という漢字が使われている人物が多いのは、「通字」という決まりのようなもので、足利家の漢字が「氏」だった。新田家にも「氏」の漢字が使われているのは足利から名づけられたもの。〔鎌倉攻略は〕足利高氏から命令を受けた可能性が高い。〈SM〉
- ・元弘3年(1333年)の古文書では、足利が北条を裏切る日、新田〔一族〕の岩松に、共に合戦をしようという内容の御内書が届いたという記録が残されている。記録には無くとも、義貞の所にも御内書が届いていた可能性は十分に考えられる。(新田と足利は親戚関係であるが立場上足利が上であるため、足利が新田に命令する形で御内書が書かれている。)〈KH〉
- ・新田と足利は、もとは兄弟の一族。親戚関係。足利の方が、立場が上で、新田とつり合いがとれなくなった。「氏」を両者の名に入れ関係回復。足利高氏から文書が届くと、共に鎌倉を攻めようと言われて義貞は参加。〈AK〉

④ 新田義貞が鎌倉市中に侵攻する際、なぜ人家を焼き払う必要があったのか。

- ・都市の人家は軍勢の寄宿(一時的な駐留)先になった。鎌倉の人家は北条氏勢の寄宿先。〔新田勢が〕人家を焼き払うことで、北条氏勢の駐留先をなくし、鎌倉から撤退させることを目論んだ。〈NS〉
- ・戦の時は、人家に軍隊が押し入り、基地とする場合が多い。そのため新田は、敵の基地を焼き払うため、人家を焼いていく必要があった。〈KH〉
- ・南北朝(初期)の洛中宿人在所注文断簡に、京都の家のことが書いてあった。宿人＝家を借りている人→戦争が起こると、武士が泊まり込む。都市の人家は軍勢の寄宿(一時的な駐留)先になった。民家＝基地。これを壊せば、基地がなくなる。〈OM〉

2 当日の質問

＊事前に生徒が用意したものの中から時間を見ながら質問した。

(1) 鎌倉攻めに関連した質問

- ① 新田義貞はなぜ太刀を海に投げて潮を引かせようと考えたのか。本当の話か？
 - ・義貞は潮の満ち引きを知っていた。太刀を投げたのは、味方に向けたパフォーマンス。盛り上げるため。〈AK〉
 - ・「太刀を投げて引かせようとした」というのは、フィクションである。義貞の刀パフォーマンスは、鼓舞するためで、潮が引いたときに行った。〈SI〉
- ② 北条高時以下北条氏一門と家人は東側に逃げずに自害したのか。
 - ・千葉氏が東から新田が西と北から攻めてきていたので、北条は逃げ場がなかった。死ぬしかなかった。〈KK〉
 - ・東からも攻められた。千葉氏も攻めてきたから追い詰められた。〈IR〉

(2) 鎌倉幕府の存続に関連した質問

- ③ 幕府と御家人の関係は、蒙古襲来がなかったら良好だったのか。
 - ・蒙古襲来で不満が高まったが、襲来から80年たっても幕府は続いていた。寺や御家人でない武士も戦ったが褒美をもらえなかった。朝廷は機能していなかった。後醍醐は、世話を放棄した。不満がはじけた。〈SI〉
 - ・幕府崩壊は、蒙古襲来だけではない。寺の人も参加していた。御家人以外の武士も参戦した。北条氏は、自分の土地を与えていたが、戦争に参加した人が多すぎて褒美を全員に与えきれなかった。御家人、武士、寺、朝廷からも不満の声が止まらなかった。〈SM〉
 - ・原因は「蒙古襲来とは」違う。寺、御家人、御家人以外の武士が「蒙古襲来に」参加。参加する人が多くて、不満がさらに増えていた。褒美がもらえなかったこと。朝廷の機能なし。天皇は、仕事を放棄。北条氏は様々な人から不満を受けた。対応しきれなかった。〈AK〉

(3) まとめ

- ④ 鎌倉幕府が滅亡した原因はなにか。
 - ・滅びたのは北条氏であって、幕府は5年で復活した。北条氏だけが反対されていたのであって、幕府はむしろ歓迎されていた。そのためすぐに幕府を作り直せた。〈KK〉
 - ・鎌倉幕府ではなく北条氏が滅びた。不満を受けていたのは北条氏。足利氏は、北条氏を参考に室町幕府をつくった。〈SM〉
 - ・北条だけ滅びた。幕府は滅びてない。むしろ求められていた。〈AK〉

生徒達は、事前学習や質問を考える過程で歴史の流れを理解できていた。そして田中先生の説明に興味関心をもって、充実感を得られた生徒が多かったことがワークシートのまとめや授業の感想などからわかった。もちろん書き留めたワークシートの内容には、生徒の誤解や不十分な理解もみられた。誤解については生徒が修正できるように、田中先生か

らいただいたパワーポイントの資料を活用して定期考査の問題を作成し、そこで振り返り、答案返却で解説を行った。

5 成果と課題

① Zoom 授業の感想

- ・自分たちでは導けないような内容ばかりだったので、とても良かったです。内容が難しかったけれども 納得できる回答でした。〈NS〉
- ・事前に質問を考えて Zoom で答えてもらうという授業をやったことがなかったので面白かったです。質問を考えるのが意外と難しく、スライド資料を読み込みました。いつもと違う授業で楽しかったです。〈KN〉
- ・特別授業では、鎌倉幕府の滅亡の流れを良く知ることができました。また自分たちが疑問に思っていたことについて知ることができ、とても良い授業となりました。〈SU〉
- ・田中先生の授業で、より鎌倉幕府が倒れるまでが理解できたと思います。特に面白いと思った話は、新田義貞が鎌倉を侵攻する際、人家を焼いた理由です。なぜなら、武士たちが戦のために人家を宿にして、町全体が基地になっていたということを知ったからです。まさか町全体が基地だったなんて全く知らなかったのもとても驚きました。他にも沢山の疑問に答えて下さったので、とても勉強になりました。〈AK〉
- ・田中先生がくわしく教えてくれて知識が増えました。わかりやすかったです。〈IR〉
- ・鎌倉は完全に包囲されていたため北条高時は滅ぼされたことが分かった。〈OU〉
- ・なんとなく流れをつかんでいたが、一つの疑問点に対し深く教えてくれたので、より理解が深まりました。〈MN〉

② 成果と課題

生徒の授業直後の感想や感想文から田中先生の話がよく理解できたことが成果だと考える。田中先生のお話がわかりやすかったことが一番大きな理由である。事前学習で田中先生への質問を考えるための学習活動を通して、興味関心を高めることができたことも理由の一つだったと思われる。

一方で「歴博」の第2展示室の資料をあまり活用できなかったことは残念であった。11月30日の授業では、中世都市「鎌倉」の模型を事前学習のスライド資料として使用したことにとどまった。

最後に

コロナ禍でいろいろなことが変わった。博物館でも動画の配信が増えたのではないだろうか。博学連携も博物館の多様な機能を選択的に活用していくことが求められているように思う。とはいえ展示室はモノと人（研究者や学芸員）が作り出した魅力あふれる世界である。今回は「歴博」に生徒を引率できなかった。このことは残念でならない。

細々と博学連携を続けてきて20年が経ち、今は再任用フルタイムとして教壇に立っている。「歴博」でこのようなことをさせていただくのも最後の機会となった。今までお世話になった「歴博」の方々と一緒に博学連携を考えてきた先生方にとっても感謝している。

今回は、一番大事に考えてきた Zoom 授業で、田中大喜先生と繋ぐことに時間がかかり時間を無駄にしてしまった。そのために 50 分の準備をしてくださっていた田中先生に申し訳ないことをしてしまった。しかし残った時間を田中先生のお陰で充実した時間にすることができたことに感謝したい。

〈田中先生の Zoom 用資料〉

事前に送らせていただいた質問について、解答するためにパワーポイントをご用意いただいた。その中で使用された資料は、以下の通りである。

- 1 足利高氏はなぜ北条氏を裏切ったのか？
 - ・鎌倉期北条氏・足利氏関係系図
- 2 足利高氏が六波羅探題を滅ぼすと大勢が一変したのはなぜか？
 - ・鎌倉時代後期の幕府組織図
 - ・鎌倉時代後期の六波羅探題の管轄地域
 - ・鎌倉後期武家社会の階層序列図
- 3 新田義貞はなぜ鎌倉攻略に参加したのか？
 - ・鎌倉期足利氏・新田氏関係系図
 - ・「正本文書」応永 33 年（1426）7 月日付岩松満長代成次安堵申状に副えられた文書目録
- 4 新田義貞はなぜ鎌倉の人家を焼き払ったのか？
 - ・「竹内文平氏所蔵文書」洛中宿人在所注文断簡

〈主な参考資料〉

田中大喜	『足利氏と新田氏』	吉川弘文館	2021 年
田中大喜	『新田一族の中世』	吉川弘文館	2015 年
田中大喜編著	『図説 鎌倉幕府』	戒光祥出版	2021 年
佐藤雄基	『御成敗式目』	中公新書	2023 年
細川重男	『宝治合戦』	朝日新書	2022 年
永井晋	『北条高時と金沢貞顕』	山川出版社	2009 年
松尾剛次	『中世都市鎌倉を歩く』	中公新書	1997 年
西田友広	『16 テーマで知る 鎌倉武士の生活』	岩波ジュニア新書	2022 年
入間市立博物館	東村山市徳蔵寺資料館資料		